

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red
Cross Kyushu International College of
Nursing

喜多悦子学長研究業績

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本赤十字九州国際看護大学 公開日: 2013-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日本赤十字九州国際看護大学, メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/229

研究業績

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所等	著者等氏名
図書、報告書等				
経済開発とエイズ〈原題 Confronting AIDS : public priorities in a global epidemic〉	共著	1999年	東洋経済新報社	世界銀行著、喜多悦子ほか、1名監訳
開発と健康：ジェンダーの視点から	共著	2001年	有斐閣	青山温子ほか、2名
地球環境ハンドブック第2版（分担執筆 14. 8 難民）	分担	2002年	朝倉書店	不破敬一郎、ほか、1名編著
国際健康危機管理のための情報ネットワークのあり方に関する研究 平成16年度 総括研究報告書	分担	2005年	[厚生労働科学研究費補助金国際健康危機管理ネットワーク強化研究事業]	主任研究者 喜多悦子
国際保健医療学第2版（分担執筆 第Ⅱ部 17. 難民保健）	分担	2005年	杏林書院	日本国際保健医療学会編集
地球公共財の政治経済学（分担執筆 第3部X. 感染症対策を超えて：グローバリゼーション時代の健康問題）〈原題 Inge Kaul : Providing global public goods : managing globalization〉	分担	2005年	国際書院	Kaul Inge 著、高橋一生監訳
女性医師からのメッセージ：医系キャリアアップの道しるべ（分担執筆 国境をこえて）	分担	2005年	真興交易(株)医書出版部	津田喬子編著
紛争時、紛争後におけるメンタル・ヘルスの役割。独立行政法人国際協力機構客員研究員報告書	単著	2005年	国際協力機構国際協力総合研修所	喜多悦子
国際健康危機管理のための情報ネットワークのあり方に関する研究 平成17年度 総括研究報告書	分担	2006年	[厚生労働科学研究費補助金国際健康危機管理ネットワーク強化研究事業]	主任研究者 喜多悦子
国際健康危機管理のための情報ネットワークのあり方に関する研究 平成18年度 総括研究報告書	分担	2007年	[厚生労働科学研究費補助金国際健康危機管理ネットワーク強化研究事業]	主任研究者 喜多悦子
国際健康危機管理のための情報ネットワークのあり方に関する研究 平成16年度-18年度 総合研究報告書	分担	2007年	[厚生労働科学研究費補助金国際健康危機管理ネットワーク強化研究事業]	主任研究者 喜多悦子
保健医療（分担執筆 国境を越えて健康をまもる）	分担	2007年	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）	兵藤智佳編
国際保健分野での知識マネジメントに関する研究 平成19年度 総括・分担研究報告書（分担執筆 保健医療人材養成と緊急入道援助）	分担	2008年	[厚生労働科学研究費補助金社会保障国際協力推進研究事業]	主任研究者 青山温子
国際医療協力を携わる人材養成および登録システムの構築に関する研究 最終報告書 平成20年（分担執筆 看護系における国際協力を携わる人材育成に関する研究）	分担	2008年	[国立国際医療センター国際医療協力研究委託事業]	主任研究者 中村安秀
中央大学経済学部創立100周年記念：寄付講座シリーズIII:21世紀の人間と経済（分担執筆 開発とHIV/エイズ）	分担	2008年	中央大学出版部	鳥居伸好ほか、編
女性と健康：ムーブ叢書 ジェンダー白書6（分担執筆 グローバリゼーションの中の女性の健康）	分担	2008年	明石書店	北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”編
看護の実力：訪問看護・開業ナースはゆく（分担執筆 看護の力）	分担	2008年	照林社	村松静子 監修
災害医学 改訂2版（分担執筆 難民保健から避難民援助へ）	分担	2009年	南山堂	災害人道医療支援会 編
国際保健分野での知識マネジメントに関する研究 平成20年度 総括・分担研究報告書（分担執筆 国際機関の人道援助に関わる意思決定メカニズム-世界保健機関(WHO)と国際赤十字運動-)	分担	2009年	[厚生労働科学研究費補助金社会保障国際協力推進研究事業]	主任研究者 青山温子

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所等	著者等氏名
エイズで学ぶ:心豊かに生きるために(分担執筆 「人道科学」への道)	分担	2010年	エピック	ワイズメンズクラブ国際協会西日本区 編
貧困のない世界を目指して:国際開発学会 20年の歩み(分担執筆 社会的健康とこころの開発)	分担	2010年	同友館	国際開発学会 編
平成22年度学校法人日本赤十字学園「赤十字と看護・介護に関する研究助成」事業報告書(分担執筆 高齢化社会における健康問題への看護介入の可能性についての研究)	分担	2011年	日本赤十字学園	日本赤十字学園
グローバル化した保健と医療:アジアの発展と疾病の変化(分担執筆 5 先進国型医療から途上国のプライマリー・ヘルスケアへー私のたどった旅)	分担	2011年	国際書院	加来恒壽 編
平成19-22年度 国際協力イニシアティブ総括報告書(分担執筆 ベトナムの拠点大学における「災害看護学」教育導入支援)	分担	2011年	文部科学省	文部科学省 大臣官房国際課 国際協力政策室
学生のための医療概論 第3版 増補版(分担執筆 第3章7節 医療の国際化 海外での保健医療活動)	分担	2012年	医学書院	黒田研二ほか執筆; 千代豪昭、ほか1名 編
系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学(分担執筆 第1章 災害看護学・国際看護学とはなにか、第5章 国際看護学)	分担	2013年	医学書院	日本赤十字社事業局看護部

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所、発表雑誌等の名称	著者等氏名
学術論文				
血友病の臨床	共著	1970年	医療 24(2) pp.95-103	吉岡慶一郎ほか 6名
Adams-Stokes 症候群を呈して死亡した急性骨髄性白血病の1剖検例：第36回日本循環器学会近畿地方会	共著	1975年	Japanese circulation journal 39(10) 1160	辻村拓夫ほか 5名
V・B12 経口投与により著効をみた megaloblastic anemia の一症例	単著	1978年	奈良医学雑誌 29(1) pp.226-232	喜多悦子
ラテックス粒子貪食試験と細胞化学の同時証明法の検討	共著	1979年	臨床病理 27(12) pp.1099-1103	丹羽欣正ほか 3名
脳血管障害患者の血小板および血しょう中セロトニン値	共著	1981年	血液と脈管 12(2) pp.255-259	堀池信雄ほか 4名
基質に2,7-フルオレンジアミンとローラン酸を組み合わせ用いたペルオキシダーゼ染色法	共著	1981年	臨床病理 29(6) pp.613-616	丹羽欣正ほか 4名
結核性胸膜炎における Fibrinogen に関する研究	共著	1981年	結核 56(8) pp.385-390	藤木新治ほか 6名
癌性胸膜炎患者における OK-432 胸腔内投与時の凝固系に関する研究：Fbg 値と胸膜癒着との関係	共著	1981年	肺癌 21(3) 340	藤木新治ほか 6名
カタラーゼ染色の血液学的応用	共著	1981年	臨床病理 29(10) pp.1057-1061	丹羽欣正ほか 3名
血液凝固阻止物質の検査 I	単著	1982年	Medical Technology 10(1) pp.21-27	喜多悦子
血液凝固阻止物質の検査 II	単著	1982年	Medical Technology 10(2) pp.137-142	喜多悦子
胸水貯留患者の血しょう Fibrinogen と胸膜癒着 結核性胸膜炎とうっ血性心不全性胸水との比較	共著	1982年	週刊日本医事新報 3024 pp.31-34	三上理一郎ほか 6名
凝固検査の精度管理	共著	1982年	臨床病理 30(12) pp.1300-1306	喜多悦子ほか 1名
肺炎状で発症し、経過中も多彩な肺所見を呈した高齢者急性リンパ性白血病の1例	共著	1983年	日本胸部臨床 42(2) pp.154-158	阿児博文ほか 8名
血液検査の将来 夢と恐れ	単著	1983年	臨床病理 31 補冊 15	喜多悦子
臨床病理の将来を想う	単著	1983年	医療と臨床検査 83 9	喜多悦子
152. マクログロブリン血症の細胞形態(第19群リンパ腫・その他、示説、第22回日本臨床細胞学会秋期大会)	共著	1983年	日本臨床細胞学会雑誌 22(4) 1020	奥山隆三ほか 3名
癌性胸膜炎患者における OK-432 胸腔内投与時の凝固系に関する研究：Fibrinogen 値と胸膜癒着との関係	共著	1983年	肺癌 23(4) pp.449-455	藤木新治ほか 6名
Empty sella を伴った partial trisomy 8q の1症例	共著	1983年	日本内科学会雑誌 72(11) pp.1578-1582	喜多公雄ほか 6名
電氣的血小板凝集能測定	単著	1983年	臨床病理 31(11) 1204	喜多悦子
223) Haemonetics 社製 Automated Cell Saver III の使用経験：日本循環器学会第54回近畿地方会	共著	1983年	Japanese circulation journal 47 351	康重雄ほか 10名
イムノケミストリーシステム(ICS)による凝固因子の測定 プロトロンビンの測定について	共著	1984年	日本臨床検査自動化学会誌 9(2) pp.508-511	森田啓子ほか 5名

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所、発表雑誌等の名称	著者等氏名
免疫グロブリン分泌しゅようの2症例	共著	1984年	衛生検査 33(4) pp. 634-637	奥山隆三ほか、3名
血液検査の将来	単著	1984年	臨床病理 32(5) pp. 461-466	喜多悦子
止血、血栓に関する検索法の進歩と問題点(1) 血液凝固・線溶検査	単著	1984年	臨床血液 25(6) pp. 791-800	喜多悦子
マイクロバイオロジック・システムによる尿細菌 検査の検討 検出時間による菌量と菌種の検討	共著	1984年	日本臨床検査自動化学会誌 9(3) pp. 48-51	宗川義嗣ほか、2名
自動血液凝固測定装置 CA-100 の検討	共著	1984年	日本臨床検査自動化学会誌 9(3) pp. 587-589	石本盛治ほか、4名
各種コントロール血漿と止血検査(1) スクリー ニング検査と因子定量	単著	1984年	臨床病理 32 補冊 147	喜多悦子
血液凝固異常(DIC)のモニタリング	単著	1984年	臨床病理 32(10) pp. 1091-1096	喜多悦子
止血血栓検査の進め方シリーズ(6) フィブリ ン、フィブリノゲン分解産物が増加した時	単著	1985年	Medical Technology 13(4) pp. 341-346	喜多悦子
Laser nephometry による FDP (D, E)測定につ いて	単著	1985年	日本血液学会雑誌 48(2) 518	喜多悦子
最近の止血・血栓検査と将来の展望	単著	1985年	Medical Technology 13(7) pp. 611-615	喜多悦子
凝固系と DIC	単著	1985年	臨床病理 63 臨増 pp. 17-26	喜多悦子
フィブリンモノマー複合体	単著	1985年	臨床病理 33 補冊 63	喜多悦子
RAEB (refractory anemia with excess of blast) における赤芽球 PAS 反応について	単著	1985年	日本血液学会雑誌 48(7) 1614	喜多悦子
はん血球減少症で発症したんぱく同化ホルモン が著効を呈した発作性夜間血色素尿症(PNH)の1 例	共著	1986年	臨床血液 27(3) pp. 344-348	長澄人ほか、6名
小児喘息発作時の theophylline の TDM	共著	1986年	TDM 研究 3(1) pp. 68-69	太田勝江ほか、1名
歯肉がん患者にみられた偽性血小板減少症の1 例	共著	1986年	日本口腔外科学会雑誌 32(6) pp. 1011-1017	岡田征夫ほか、8名
周産期における臨床検査 3 新生児期の止血検 査	単著	1986年	臨床病理 34(6) pp. 623-632	喜多悦子
気管支ぜんそく発作患児におけるテオフィリン の TDM	共著	1986年	日本小児科学会雑誌 90(7) 1669	喜多悦子ほか、
急性期脳梗塞症例における血小板内セロトニン の変動と臨床症状の推移 Ticlopidine 投与に よる影響	共著	1986年	J Nara Med Assoc 37(5) pp. 563-571	京井喜久男ほか、6名
Mixed gonadal dysgenesis に発生した seminoma の1例	共著	1987年	泌尿器科紀要 33(4) pp. 609-616	守屋昭ほか、6名
慢性閉塞性肺疾患(COLD)患者における血小板機 能について	共著	1987年	臨床病理 35 補冊 164	喜多悦子ほか、
凝固・線溶能にたいする一過性低酸素負荷の影 響	共著	1988年	日本血液学会雑誌 51(2) 492	喜多悦子ほか、
161 気管支喘息発作時における血小板活性化と 凝固線溶系の変動	共著	1988年	アレルギー 37(8) 697	水本保子ほか、7名
一過性低酸素血症による凝固、線溶、血小板機能 の変動	共著	1988年	臨床病理 36 補冊 61	喜多悦子ほか、
血液 スライドテストによる凝固検査	単著	1989年	検査と技術 17(5) pp. 451-454	喜多悦子

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所、発表雑誌等の名称	著者等氏名
気管支ぜん息発作時における血小板活性化と凝固線溶系の変動	共著	1989年	日本胸部臨床 48(5) pp. 389-395	水本保子ほか 7名
一過性低酸素負荷における健常人の血小板機能の動態	共著	1989年	日本胸部疾患学会雑誌 27(7) pp. 811-817	水本保子ほか 5名
日本ME学会国際協力委員会報告書(厚生省S)	共著	1991年	日本ME学会 国際協力委員会報告書 平成2年度 133	斎藤正男ほか 8名
国際医療協力部 派遣業務のまとめ	共著	1992年	医療 46増刊 862	喜多悦子ほか
海外医療ハンドブック カンボジア(厚生省S)	共著	1993年	海外医療ハンドブック カンボジア 平成5年 136	建野正毅ほか 2名
国際医療協力について	単著	1993年	Laboratory and Clinical Practice 11(1) pp. 68-78	喜多悦子
途上国における輸液・補液の現状	共著	1994年	小児内科 26(2) pp. 302-305	正田良介ほか 2名
世界の小児保健医療	単著	1994年	医療 48増刊 182	喜多悦子
日常患者指導の進めかた 在日外国人の診療時の注意	共著	1994年	Medical Practice 11 臨増 pp. 126-132	小林米幸 ほか 1名
政府間の医療協力の現状と問題点 JICAの医療協力事業を例にして	単著	1995年	人間の医学 30(6) pp. 414-422	喜多悦子
わが国の保健医療分野におけるODA無償資金協力	共著	1995年	熱帯 28 pp. 86-89	椎名丈城 ほか
ボリビア・サンタクルス総合病院外科におけるレジデント制度	共著	1995年	医学教育 26(3) pp. 207-213	三好知明ほか 6名
国際比較による健康と教育の関連—教育は人々を幸せにするか(健康のとらえ方—国さまごま<特集>)	単著	1995年	教育と医学 43(6) pp. 510-513	喜多悦子
大災害に対するリスクマネジメント アメリカにおける災害医療システム FEMA(連邦緊急管理庁)とNDMS(国家災害医療システム)	共著	1995年	病院 54(9) pp. 864-870	赤木真寿美ほか 1名
大災害救援活動に最も重要な公衆衛生的視点並びに活動	共著	1995年	日本公衆衛生学会総会抄録集 54回 1509	仲佐保ほか 3名
発展途上国の病院援助の問題点	共著	1995年	日本公衆衛生学会総会抄録集 54回 1497	朝日茂樹ほか 4名
コレラ A disease that begins where other diseases end-with death	共著	1995年	都薬雑誌 17(12) pp. 39-46	正田良介ほか 1名
国立医療機関における小児医療のあり方 世界の小児医療	単著	1996年	医療 50(4) pp. 286-288	喜多悦子
世界の母乳栄養の状況	共著	1996年	周産期医学 26(4) pp. 465-470	喜多悦子ほか 3名
阪神大震災による建造物の損壊と負傷に関する実態調査結果の概要及びインターネットによる調査結果情報の提供について	共著	1996年	厚生の指標 43(6) pp. 11-16	赤木真寿美ほか 1名
国際医療協力の現実と将来	共著	1996年	民族衛生 62付録 30	喜多悦子 ほか
海外渡航者の診療ガイド 「海外渡航者の診療」と取り組む前に 海外渡航者診療の現状	共著	1997年	治療 79(7) pp. 1577-1582	喜多悦子ほか 1名
事例研究 無償資金協力に考慮すべき因子—ウガンダの病院協力から	共著	1997年	国際協力研究 13(2) pp. 25-34	明石秀親ほか 2名
IDDM患者の医療費の負担感についての検討	共著	1998年	糖尿病 41(8) 733	向井美奈ほか 7名
「地域医療室」による地域医療連携システムの構築と評価	共著	1998年	社会保険医学雑誌 38(1) pp. 1-5	中込玲子ほか 14名
カンボジア母子保健プロジェクトにおける技術協力と無償資金協力の連携	共著	1998年	国際保健医療 13(1) pp. 48-54	山田多佳子ほか 5名

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所、発表雑誌等の名称	著者等氏名
国際協力の今昔（特集 厚生行政の分野における国際協力の展開）	単著	2000年	厚生 55(2) pp. 24-26	喜多悦子
国際協力の現場から 複合災害と人工問題	単著	2000年	世界と人口 pp. 26-29	喜多悦子
災害拠点病院 新しい災害 人道的危機	単著	2001年	日本集団災害医学会誌 5(2) pp. 79-89	喜多悦子
ガボン共和国におけるエボラ出血熱流行と関連する文化的要因	共著	2001年	日本公衆衛生雑誌 48(10) pp. 853-859	国井修ほか、2名
これからの国際保健医療協力 エイズ治療薬の援助と製造ライセンス問題	共著	2002年	公衆衛生 66(4) pp. 270-274	喜多悦子ほか、2名
談話室(52) 保健医療にも国際政治の感覚が必要です	単著	2002年	外交フォーラム 15(8) pp. 10-11	喜多悦子
座談会 男女共同参画における国際的協調—アフガニスタンにおける女性支援を中心に（特集 地球社会の男女共同参画の推進に向けて）	共著	2002年	共同参画 21	喜多悦子ほか、2名
人口・貧困・平和—アフガニスタンの現場から（2002年「世界人口デー」特別シンポジウム）	共著	2002年	世界と人口 341 pp. 13-33	喜多悦子ほか、2名
外交 市民・平和と外交 アフガン復興へ 見た者の責任 同情ではなく—喜多悦子さん+鎌田さゆりさん（総特集 復興と再生）	共著	2003年	Discussion journal 『民主』 4 pp. 22-32	喜多悦子ほか、1名
発展途上国におけるエイズ流行とその対策に関する研究	共著	2003年	長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集 15 pp. 83-84	喜多悦子ほか、10名
世界の公衆衛生に貢献した日本人先駆者たち 次世代へのメッセージ 国際緊急援助と私(上)	単著	2003年	公衆衛生 67(10) pp. 791-794	喜多悦子
復興開発過程のカンボディアにおける女性の健康問題(1) 政府・国際機関等の資料による分析	共著	2003年	日本熱帯医学会雑誌 31 増刊(国際保健医 18 増) 201	宇野日出男ほか、4名
復興開発過程のカンボディアにおける女性の健康問題(2) インタビュー結果を基にした Post-conflict(紛争後)についての1考察	共著	2003年	日本熱帯医学会雑誌 31 増刊(国際保健医 18 増) 202	喜多悦子ほか、4名
世界の公衆衛生に貢献した日本人先駆者たち—次世代へのメッセージ 国際緊急援助と私(下)	単著	2003年	公衆衛生 67(11) pp. 897-900	喜多悦子
医学・医療の進歩を世界へ向けて 国際医療協力 小児保健・育成医療における国際協力 こどもの健康への国際協力	共著	2003年	日本医学会総会誌 26(3) 255	喜多悦子ほか、1名
難民医療から、避難民保健へ	単著	2004年	日本集団災害医学会誌 8(2) 116	喜多悦子
世界の公衆衛生に貢献した日本人先駆者たち—次世代へのメッセージ(11) フォーラム—次世代へのメッセージ(上)	共著	2004年	公衆衛生 68(2) pp. 148-151	蟻田功ほか、2名
世界の公衆衛生に貢献した日本人先駆者たち—次世代へのメッセージ(12・最終回) フォーラム—次世代へのメッセージ(下)	共著	2004年	公衆衛生 68(3) pp. 238-241	蟻田功ほか、2名
真の武力紛争なくすには紛争地の子どもに適正な育児環境を	単著	2004年	人口と開発 86 pp. 16-20	喜多悦子
発展途上国におけるエイズ流行とその対策に関する研究	共著	2004年	長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集 2003 pp. 83-84	喜多悦子ほか、8名
インタビュー 教えてドクター喜多 第15回国際エイズ会議にあたって—エイズ問題の国際的潮流	共著	2004年	バンコク日本人商工会議所所報 pp. 40-43	高松郷子ほか、1名
看護大学における海外自主研修の学習成果に影響する要因分析	共著	2004年	国際保健医療 19 suppl 237	酒井康江ほか、2名

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所、発表雑誌等の名称	著者等氏名
「神のメッセージ」 途上国の赤ん坊	単著	2005年	日本周産期・新生児医学会雑誌 41(2) pp.172-173	喜多悦子
【国際化する小児保健医療 海外から来た子・行く子・世界の子】 子どものための国際保健医療協力 難民の子どもたち	単著	2005年	小児科臨床 58 増刊 pp.1435-1443	喜多悦子
Scramble Zone 開発途上国における研修の実践—学生が主体となって行った研修の学習成果とその要因	共著	2005年	看護教育 46(8) pp.724-727	酒井康江ほか 2名
グローバリゼーションと健康 グローバル化と難民、移民の健康問題	単著	2005年	公衆衛生 69(9) pp.741-745	喜多悦子
紛争後復興開発過程のカンボジアにおける女性の健康問題	共著	2005年	国際保健医療 20(2) pp.7-18	平川オリエほか 2名
神のメッセージ-開発途上国の赤ん坊	単著	2005年	日本周産期・新生児医学会雑誌 41(4) pp.658-666	喜多悦子
複雑化する健康の危機にどう対応するか? 感染症対策から考える健康の危機管理	単著	2005年	日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report 4 pp.17-28	喜多悦子
21世紀の健康と看護	単著	2005年	日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report 4 pp.1-16	喜多悦子
特別講演 21世紀の健康と看護 (第6回日本赤十字看護学会学術集会)	単著	2006年	日本赤十字看護学会誌 6(1) pp.20-27	喜多悦子
看護系における国際協力に携わる人材育成に関する研究	共著	2006年	Tropical Medicine and Health 34 210	喜多悦子ほか 2名
救援者のメンタルヘルス 1-災害被災者の心理的变化に備えるということ	共著	2007年	こころのマネジメント 10(4) pp.94-98	高橋清美ほか 1名
救援者のメンタルヘルス 2) 救援者自身の心理的变化に備える	共著	2007年	こころのマネジメント 10(5) pp.26-32	高橋清美ほか 2名
国際医療協力 人道医療支援をめぐる世界の健康の危機と人道援助の歴史	共著	2007年	日本医学会総会誌 27回 学術講演要旨 232	喜多悦子ほか 2名
保健医療分野の国際イニシアティブとパートナーシップ.	共著	2008年	国際開発学会第9回春季大会報告論文集 pp.13-16	青山温子ほか 4名
世界エイズ・結核・マラリア対策基金の5年評価 (経過報告1).	共著	2008年	日本評価学会春季第5回全国大会報告論文集, pp.45-56	青山温子ほか 3名
インドネシア-ボゴール病院における災害看護教育支援への取り組み	共著	2008年	日赤医学 60(1) 120	大塚邦子ほか 4名
「世界エイズ・結核・マラリア対策基金の5年評価-報告2: 総合的インパクト評価」	共著	2009年	日本評価学会春季第6回全国大会報告論文集 pp.151-158	青山温子ほか 3名
途上国における人間の安全保障	単著	2009年	日本救急看護学会雑誌 11(2) 47	喜多悦子
子どもの未来、世界の未来 20年の国際保健活動から	単著	2009年	日本小児科学会雑誌 113(2) 181	喜多悦子
Disaster preparedness における看護師の役割-スマトラ島沖地震津波災害の事例から-	共著	2009年	国際保健医療 24 121	浦上友美ほか 1名
健康危機に立ち向かう公衆衛生のちから	単著	2009年	日本公衆衛生学会総会抄録集 68回 36	喜多悦子
内戦・津波災害下の子どもの健康-スリランカ、トリンコマレ県の実態調査に見る性差	共著	2010年	アジア女性研究 19 pp.39-50	関育子ほか 2名
赤十字と国際保健医療協力	単著	2010年	血液事業 33(2) 125	喜多悦子

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所、発表雑誌等の名称	著者等氏名
世界結核・エイズ・マラリア対策基金の5年評価-国際援助機関の評価の事例	共著	2011年	日本評価研究 11(1) pp. 137-149	青山温子ほか、3名
赤十字と国際保健医療協力	単著	2011年	血液事業 33(4) pp. 447-448	喜多悦子
保健医療分野の国際協力	単著	2011年	日本赤十字豊田看護大学紀要 6(1) pp. 3-13	喜多悦子
対談・看護教育の明日を拓く 質の高いケア能力を得るための看護師教育の実践が私たち指導者としての使命です	共著	2011年	月刊新医療 38(11) pp. 148-151	喜多悦子ほか、1名
ナイチンゲールの今日的意義 開発理念の観点からナイチンゲールを読む	単著	2011年	日本赤十字九州国際看護大学 紀要 10 pp. 3-34	喜多悦子
災害多発時代の看護教育	共著	2012年	日本看護学教育学会誌 22 学術集会講演集 109	喜多悦子ほか、2名

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所、発表雑誌等の名称	著者等氏名
図書、報告書、学術論文等				
Altered sexual differentiation of hepatic uridine diphosphate glucuronyltransferase by neonatal hormone treatment in rats.	共著	1979	The Biochemical journal 180(2):313-8.	Lamartiniere CA, Dieringer CS, Kita E, Lucier GW
Role of the pituitary in modulating hepatic monoamine oxidase activity.	共著	1980	Endocrinology 106(3):798-804.	Illsley NP, Kita E, Lamartiniere CA
Pituitary control of blood coagulation in the rat.	共著	1981	The Journal of endocrinology 91(3):367-73.	Kita E, Lamartiniere CA
Prevalence and clinical presentation of glucose-6-phosphate dehydrogenase deficiency in Pakistani Pathan and Afghan refugee communities in Pakistan; implications for the use of primaquine in regional malaria control programmes.	共著	1995	Transactions of the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene 89(1):62-4.	Bouma MJ, Goris M, Akhtar T, Khan N, Khan N, Kita E
The medical and public health response to the Great Hanshin-Awaji Earthquake in Japan: A case study in disaster planning.	共著	1995	Medicine and Global Survival 2(4): 214-26.	Kunii, O. Akagi, M. Kita E
Guideline for Japan's Grant Aid for Radiological Equipment for Developing Countries.	共著	1996	Technology and Development 9: 109-14. (JICA Research Institute Study Report)	Shiina T, Kita E, Wagatsuma T, Hanada K, Itami J, Fujii K
Final report of the research project on a study on the health and prospective medical assistance for affected persons.	共著	1996	[The Ministry of Health and Welfare, Government of Japan]	Chairperson Kita E
Inter-Agency Medical/Health Task Force : Humanitarian Crisis in South Balkans 15 April-15 July 1999 Report	共著	1999	World Health Organization Department of Emergency and Humanitarian Action	Kaempf M, Lagoutte J, Revel J P, Tailhades M, Gushulak B, Moral C, Murphy R, Pierotti D, Serrano D, Tibouti A, Malyavin A, Bhatia R, Dualeh M, Malé S, Timmer A, Akre J, Andrea A, Belli A, Brownlow S, Connolly M, Deboutte D, Ville de Goyet C DE, Everts H, Islam Q, Issakov A, Kita E, McKenna J, Noji E, Tegegn Y, Thieren M
Research & Development Use of Health Economics for Decision-making in Complex Emergencies (based on Health Systems in Emergency and Post-Emergency Reconstruction - Use of Economics for Decision-Making - WHO/FICOSSER Meeting Paris, 16-18 December 1999)	共著	1999	World Health Organization	Doan B D H, Carbonnier G, Gastellu M, Griekspoor A, Kita E, Lacroinque J F, Levy D, Magruder K, Mathonat J, Mullen P, Normand C, Paquet C, Perrin P, Scheffler R, Tligui A, Toole M, Deboutte D, Menu J P, Shah A, Thieren M

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年	発行所、発表雑誌等の名称	著者等氏名
Mental Health in the Region of Conflict and its Prevention. (In: Evolving Concept of Peace-building: Natural Resource Management and Conflict Prevention)	分担	2001	FASID :Foundation for Advanced Studies on International Development	Fuwa K, Yoshida H, Fusamae R, Mushakoji K, Marks SC, Kita E, Hasegawa S, Kurosawa K
International Cooperation in Health and Medical Care.	単著	2002	Japan Review of International Affairs 16 (4): 315-327.	Kita E
Reconstruction of health service systems in the post-conflict Northern Province in Sri Lanka.	共著	2007	Health Policy 83(1):84-93.	Nagai M, Abraham S, Okamoto M, Kita E, Aoyama A
Health and girls' education in Africa. (In: Proceeding of the International Symposium)	分担	2008	African Development and Girls' Education. 2008. Yokohama	[Yokohama National University]